

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1046
施設名	グリーンフィールド上野毛保育園
施設所在地	東京都世田谷区上野毛1-9-7
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

顕微鏡を使って身近な生き物や植物の世界を探り、新たな発見を楽しむ

<テーマの設定理由>

虫やキノコ、植物などによく関心を抱いている姿があったので、全部をもっと近くで見ることが出来れば色々な発見があるのではないか？と考えたため

## 2. 活動スケジュール

6月 顕微鏡クイズ、ハンドタイプの顕微鏡を使い保育室内の物を観察  
7月～12月 園外に顕微鏡を持ち出し、葉っぱや砂、石などを自由に観察  
家庭から持ってきたものも室内で観察可能にした  
並行して園内に発見したものの掲示を行う  
1月 置き型の顕微鏡、及びタブレットを使い塩や砂糖などを観察  
その後も野菜の細胞を観察するなど活動をつづけた  
2月 日本科学未来館へ園外活動に行き、人間の中にも細胞があることを学ぶ

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備物：ハンディタイプ顕微鏡、置き型顕微鏡、タブレット 染色液、手作り観察図鑑  
室内の環境整備（観察、描画による表現ができるコーナーの設置 椅子・マット・ワゴン）  
調味料（白砂糖、塩、米粉、片栗粉など）、野菜（玉ねぎ、ブロッコリー、かぼちゃなど）  
環境：散歩時に持っていくことで子ども達が見たい時にすぐ見ることができる環境を整えた。さらに家庭から観察をしたいと持ってきたものはすぐに観察するようにし、興味関心が薄れることのないように援助を行った。日本科学未来館へ園外活動を実施。

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 観察後には必ず子どもたちが主体で話し合いを行う子ども会議を行い、気付いたこと発見したことの共有を行った。その会議内で「次は〇〇を見たい！」という声があがり、次の活動へと繋がっていた。
- ・ 子どもたちが観察した写真や子どもたちの感想の掲示を行なった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 活動、会議の中で「砂糖は柔らかさうだね」「塩は四角いのが多くて硬そう」「片栗粉は雪みたいだね」など子どもたちなりに言葉を探し、表現しようとする姿も多く見られた。
- ・ 友だちの意見を否定したり、話を遮ったりと自分中心の発言や行動が多かったクラスであったが、会議の中で「自分の意見を伝える」「相手の意見を聞く」という経験を通して、「確かに」「その考えも面白いね」という受け入れる、肯定する言葉が増えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組みを通じて感じたことは、子ども達が自然とPDCAサイクルを回していたことです。「見てみたい」と考え、実際に観察をし、気づきを共有し、次は何を見たいか考える。その循環が子どもたちから生まれていました。子ども会議の中でも自分の気持ち・意見を言うだけでなく、相手の意見を聞き、考えを広げる経験を積み重ねることができました。科学的な視点だけでなく、対話力や思考力の育ちにも繋がったように思います